

## 遼寧省隋唐墓出土品秋の調査

遼寧省文物考古研究所との共同研究では、2006年度から遼寧省の隋唐墓出土副葬遺物の調査・整理・研究をおこなっています。この秋は、10月11日から25日まで瀋陽市の遼寧省文物考古研究所で調査しました。今回は遺物の実見・熟覧と調書作成・撮影・実測・3次元測定などの考古学的調査に加え、理化学的分析調査を実施しました。調査には、所外の研究者も含めて計8名参加しました。

調査の対象は、遼寧省文物考古研究所などによって朝陽市で発掘調査された、蔡須達墓、襯布廠墓、西葯廠墓、紡績廠墓、双塔小区墓など14カ所に所在した唐墓の副葬品です。今回は、陶俑、陶器、土器、銅製品、鉄製品、土製品などが調査できました。

3次元計測は大型と小型の3Dデジタイザを1台ずつ用意し、測定物の大きさに合わせて使い分け、並行して実施しました。そのため、かなり効率良く作業を進めることができました。

理化学的分析は、蛍光X線分析と顕微鏡による微細な観察・撮影をおこないました。蛍光X線分析装置は携帯式のものを用い、顕微鏡も小型の持ち運びに便利なものを使用しました。携帯式蛍光X線分析装置は、今年6月に天理参考館所蔵陶俑の調査で試験的に使用した結果、十分実用可能なことが確かめられ、今回、本格的に運用しました。蔡須達墓出土の武士俑、文吏俑、駱駝俑などの顔料などを分析し、分析結果は現在、整理・解析中です。天理参考館所蔵資料との比較検討が楽しみなところです。

11月には、遼寧省文物考古研究所などの方々6名を奈良にお招きし、李新全副所長には朝陽市の隋唐墓について講演していただきました。来年3月にも再度瀋陽での副葬品調査を予定しています。

(企画調整部 小池 伸彦)



携帯式蛍光X線分析装置での調査